

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2590101057		
法人名	社会福祉法人華頂会		
事業所名	グループホームのぞみ		
所在地	滋賀県大津市大將軍3丁目25-12		
自己評価作成日	2023/11/17	評価結果市町村受理日	令和6年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 滋賀県介護福祉士会		
所在地	滋賀県草津市笠山七丁目8番138号 滋賀県立長寿社会福祉センター内		
訪問調査日	2023/12/21		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・施設の屋上で野菜の栽培をしたり、利用者様と職員で協力して手作りのおやつを作ったりしています。 ・8月にびわこ花火大会が屋上で見れるので、雰囲気作りの為利用者様に浴衣を来て頂き職員と共に観賞しています。 ・看護師が勤務しており利用者様の健康状態を把握、管理を充分に行い、協力医療機関との連携を密にして利用者様に安心して暮らして頂けるように努めています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームのぞみ」は2022年12月に開所して1年目の事業所である。開所時より自治会の一員として地域との関係づくりに努めてきた。運営推進会議でも各代表メンバーより地域に根ざした、様々な情報提供や助言があり、事業所も地域との協力関係の構築に努めている。コロナ禍での開所であったため、利用者が自治会行事へ参加することは、自粛していたが感染の状況を鑑みて地域の方との交流を深めていきたいと考えている。職員は、事業所の理念を根幹に利用者一人ひとりの特性や、思いを尊重し自由なペースで安全に配慮した自立(律)の支援に努めている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

1 自己評価及び外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念 (2590100166)					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所2階面談室に提示し、管理者・職員共に共有し実践につなげている。	事業所の理念を全職員の名札の裏に印刷して意識づけ、いつでも確認できるようにしている。月1回の職員会議やケアプラン会議で理念に沿ったケアができていないか振り返りを行って実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、近隣との交流の場を深め地域とのつながりを大切にしている。今後、近隣住民の方にも避難訓練に参加して頂く予定。	コロナ禍で利用者が自治会の行事に参加する機会は少なかったが、散歩時には、近隣の方と挨拶を交わす関係である。開所1年目でもあり、まず職員から自治会行事等への参加協力をして地域の方との交流を深めたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設が開所して1年ほどだが、コロナ禍の為、なかなか地域と交流が出来ていなかった。今は地域と交流するために努力をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で会議の開催が出来ていなかったが、8月から行っている。近況やサービス提供の状況についての報告、事故報告等、その時の状況に応じた内容を文章や写真にて報告している。	地域の民生委員・交番・利用者家族・地域包括の代表メンバーが参集して事業所の現況・取り組み報告・情報・意見交換が活発に行われている。会議録は家族等には送付し、職員には回覧して周知して課題に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事など電話で問い合わせしたり、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え、相談を受けたりしている。	市担当者には、運営推進会議の議事録にて現況や取り組みを報告して意見交換している。必要時は電話でも相談・対応出来る関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯の為、玄関の施錠をしている。当施設は1ユニットだが、1階2階と分かれ階段があり、離設・転倒防止の為、センサーを設置しセンサー作動時、声をかけ事故防止に努めている。家族には充分説明し、理解・同意を得ている。又、内部研修も定期的に行い、身体拘束にならないケアを行っている。	身体拘束ゼロセミナー参加した職員が伝達研修をしたり、ネットからの資料を参考にした勉強会を行い意見交換をして確認し身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。外へ出たい方には、さりげなく職員が付き添い見守ることを共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に内部研修を実施し、虐待についての理解を深めている。見過ごす事がないよう常々職員全員が心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、対象者はおられないが研修など出来るだけ参加するようにし必要性があれば、活用できるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明後、納得されてからサインを頂くようにしている。一度に多くの説明で分かりにくい時は再度ご一読頂くようにしている。改定の際はその都度同意を得るように説明を行う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、現在の状況を報告させて頂き、何かあればご意見を頂くようにお伝えしている。ご家族が来所された時やお電話で話す機会がある時は職員のほうから声をかけ、意見や要望を伺うようにしている。	本人の思いは、日々の暮らしの中で把握し、家族等には、利用者の暮らしの様子を手紙で伝え、面会時や電話で意見や要望を聞いている。出された意見や要望は、職員間で検討し反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1回/月のミーティングや毎朝の申し送りで意見や提案を話す機会を設けている。日頃から気軽に意見が言い合える環境作りに努めている。	月1回の会議や日々の申し送りで提案や意見を言う機会があり、勤務の都合で会議に参加出来ない職員には、意見ノートに記入して反映出来るようにしている。職場環境や勤務体制についても話をすることが出来ると職員より聞き取った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の会話の中からも個々の職員の勤務状況や職場環境の希望等を聞き取り、職員が働きやすい職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	感染対策を取り外部の研修に参加できる機会が増えてきた。研修内容は後日回覧し、他の職員に周知するよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者等交流の機会があれば参加するように努めている。同じ法人内の特養やグループホームとも相談し合い、サービス向上への取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入初期は本人との会話を充分に行い、不安に思っていることはもちろん、本人の生活歴や趣味など出来るだけ多くの情報を得て関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や面接時に家族に対して困ったこと、不安なことを伺っている。入所申し込み後の待機時も定期的に連絡をとり、現在の状況や困っている事等様子を伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	しっかり情報収集をすることにより本人や家族が望む暮らしに何が必要なのかを見極め、必要なサービスの支援ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残された能力を活かしてできる洗濯や掃除をして頂いたり、手作りおやつを作ったり、昔の方ならではの知恵やお話しをお伺いしたりしながら暮らしをともにできる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とご本人の関係の形は様々であり、事情を理解し、必要時には話を聞いたり、ケアの方法を相談したりして、家族と共に支えていける関係づくりを心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍での面会は感染防止の為制限を設けていたが、現在は玄関で直接面会を行っている。又、ライン面会が出来る様に伝えている。	予約しての面会であるが馴染みの友人の来訪がある。今後も関係が途切れないよう支援していきたい。これまでの習慣にしてきた行事等をボランティアの協力も得て行っていきたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の関わりの中で関係を把握し、周囲への配慮をしながら、利用者同士のコミュニケーションが図れるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族には様子を伺ったりしている。困ったことがあれば相談にのれるよう声掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向は職員や他利用者との日常会話やご家族と話されている内容からも把握に努めている。また聞き取りが困難な場合も本人の表情や仕草などからも把握に努めている。	日々の暮らしのケアの中で意識的に話を聴いている。意思疎通が困難な方には、何気ない表情や動きから思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時や入所時に本人や家族からの話にて生活歴などの情報を得ている。また、入所後は本人や家族との日常の関わりから馴染みの生活環境や本人性格の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中かで会話や行動、心身の状態などから現状の把握に努めている。また、日々の申し送りや記録などで職員が情報を共有しており、支援に活かせることが出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンスや毎日の申し送りにて課題やケア方法を話し合っている。本人・家族に相談し、希望や意見を伺い介護計画に反映している。必要時は主治医や看護師に相談して計画に取り入れている。	月1回のケアプラン会議(ケアマネ・看護師・その日の出勤職員)で介護計画に連動したケア記録を参照しモニタリングしている。本人・家族等には、面会時や電話で希望や意見を聞き介護計画を作成している。	本人・家族等と直接再アセスメントが出来る時間取れるといいですね。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録は必ず記入している。毎日の申し送りや毎月のミーティング時に職員間の情報共有、ケアの実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の個々の希望や状況に合った支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入し、連合会長にも相談し、地域の学校や、支所等に声掛けをしてはどうかとアドバイスを頂いているが、コロナの感染を恐れまだ行動が出来ていない。ボランティアの方に行事のお手伝いや、三味線での音楽会を楽しんで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を伺い納得が得られた上で家族の協力も得ながらかかりつけ医に受診している。定期受診や受診結果も本人家族に報告している。	事業所の提携医で往診を利用されている方が多いが、基本、家族同行で専門医や他科へ受診されている方もいる。診療情報は関係機関で共有し健康管理されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が勤務しており、心身の状態や変化は常に報告している。異常があれば24時間連絡がとれ、速やかに適切な受診が受けられる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、サマリーにて情報交換を行っている。入院中も病院関係者や家族とも相談している。かかりつけ薬局を決めており、すぐに相談や問い合わせが出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に事業所での生活や出来る範囲を説明して、本人や家族の意向を確認し、その後も随時確認を行っている重度化の場合は、地域の医療機関や関係者と相談している。	看取りに関しては体制が整っていないため行っていない。契約時に説明し納得してもらっている。重度化の傾向にあるときは、本人・家族・かかりつけ医・事業者側と話し合い医療機関や特別養護老人ホーム等に住み替えの提案をしている。	本人・家族等の意向に添った終末期の支援について職員間で話し合っていけることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応はケア会議や日々の申し送り時に話し合っている。また、研修に参加した職員は全職員対象に勉強会を行い知識向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回(そのうち1回は夜勤想定)の避難訓練を行っている。近隣の方にはコロナ禍だった為、まだ一緒には出来ていないが、今後参加して頂けるよう声をかけしていく。	定期的に避難訓練が行われている。運営推進会議での提案で一時避難所を近隣の商業施設(西松屋)にお願いし承諾を得ている。	様々な災害対策・減災について今後も話し合い、継続して地域・家族等と協力体制が出来るといいですね。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いやさりげないケアなど人格を尊重するよう日々努めている。又、問題が無いが定期的に職員間で話し合い、利用者へ寄り添った言葉かけが出来るよう注意して支援している。	本人のプライドを保ちながら、自立支援につながる声掛けの仕方を共有し、皆の前でその方のことを名前で呼ばないなど、気になったことがあるときにはミーティングで話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を伝えやすいような雰囲気や言葉掛け、対応を日々職員間で話し合い、実践するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせた生活が送れるよう支援している。又、レクリエーションも何がしたいか利用者の希望を聞き、気分が乗れない方には個別対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問散髪にて希望のカットをされている。マニキュアも塗ったりしている。整容もなるべく本人にしてもらい、難しいところは介助でおこなっている。入浴の衣類は、本人様に選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りおやつなどは利用者様とともに作っている。コップなど自分で持ってこられる方は、台所まで持って来ていただく。	みそ汁の具の下ごしらえを利用者が一緒に行っていた。屋上のプランターで育った野菜も、調理して一品に加わることがある。季節の行事食を楽しみ、おやつに蓬を摘んで利用者とともに蓬餅を作って楽しんだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分量、食事量を確認して、記録している。又、身体機能に合わせて自力摂取しやすいよう食事形態を工夫して提供したり、水分を進んで摂られない方には声を掛け促すよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、義歯の洗浄の声掛けや介助を行っている。又、必要時には歯科受診をして、口腔ケアのアドバイスを頂き、実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や様子を見て、トイレ誘導を行い、一人一人の排泄パターンを把握するよう努めている。又、利用者に合ったパットの種類を全職員で話し合い、自立に向けられるよう支援している。	入居時には全員紙パンツ使用であったところ、見直して4, 5人が布パンツに戻すことができた。個々の様子を把握し、適切な声掛けを行うことができるよう職員間で検討されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や運動でなるべく自然排便に繋がるよう努めている。又、状況を見て医師の指示にて服薬による排便コントロールも行っている。階段昇降等の運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に添えるよう支援している。又、体調を考慮した上で好みの湯温や入浴時間、入浴剤使用等工夫し、個々が気持ちよく入浴出来るよう努めている。	その日の気分や体調によって別の日に変えたり、時間の変更など希望に応じている。好みの入浴剤を職員と一緒に入れて色や香りを楽しんでいる。ボードを使い安全に全員の方が浴槽に入ることができている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温管理、乾燥対策で加湿などを徹底し、安眠に繋がるよう努めている。眠れない方にはお話を聞いたり、温かい飲み物を提供したりと、安眠できるように工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の説明書をファイルに閉じ、職員がすぐに確認できるようにしている。又、薬の変更があれば申し送りにて全職員が把握し、周知できるよう努めている。そして症状の変化や副作用はないか観察し、記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族の情報や、日々の関わりの中で、一人一人の趣味を理解したり、出来る事や楽しみを見出すことができるよう関わっている。そして歌や制作、折り紙など毎日のレクリエーションを工夫し、気分転換が出来るよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と近所を散歩に出かけたりしている。	日常的に外に出たい希望の方には、一緒に散歩をしたり、屋上から景色を眺めたりしている。家族との外出は感染症対策をお願いしたうえで支援し、通院の帰りに外食をされる方もいた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者本人が管理すると、紛失などでトラブルを招く恐れがある為、家族から小口をお預かりしている。そして本人や家族と相談のもと、必要な物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の了解がある方は希望時電話を繋ぎ、お話しされている。手紙のやり取りは現在行っている利用者がいないが、希望があれば支援できる体制である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の貼り絵等、利用者様と一緒に作成し飾っている。時には散歩時に道端に咲いている花を利用者様に生けてもらい、季節を感じられるようにしている。また、毎日の掃除で清潔を心がけている。	大きな天窓が二つある天井が開放感を演出している。車椅子や杖、独歩など歩行状態に合わせて動線を考えた席の配置で安全に移動ができる。ソファでくつろぐ方、手芸をされる方、洗濯物をたたむ方、居心地よい空間で思い思いに過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにてテレビや新聞、雑誌を見られたり、気の合った利用者同士でお話しなどされて過ごされている。一人になりたいと希望された時は、制限せず自室にてゆっくりとされ、自由な時間を過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や使い慣れた物、家族の写真などを本人、家族と相談し、持参して頂いて。出来るだけ本人が心地よく過ごせるように工夫している。	収納量のあるクローゼットとベッドが備え付けられている。使い慣れたタンスや、テレビなどを持参され、家族の写真などを飾り訪室した職員との会話も弾む。日中も部屋に休みに帰る方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物干し、掃除など一人一人出来る事を見出し、職員と一緒にしている。作業中は危険だからと過度に制限せず、見守りの徹底や道具や場所等を工夫し、安全に作業できるよう努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	現状の災害対策では不十分な為、備蓄や安否確認の方法を検討する。	地震・水災害・火災等いろいろな災害に備え、今ある備蓄品でよいのか、避難経路は等見直し、災害時困らないようにしておく。	今ある、備蓄や災害用品などを見直し、必要物品をそろえる。 家族様に1次避難場所が西松屋駐車場であることを伝え、災害により2次避難場所がどこであるか、災害時の安否確認の方法を伝える。	6ヶ月
2	33	看取りの体制がまだ整っていない中で、今後迎えるであろう終末期支援について、のぞみでできる事、家族様の意向を確認しながら、本人様が安心して生活の継続が出来る手立てが話し合えていない。	看取りケアが現状ではできないので、終末期の考えを家族様に再確認し、どうしていきたいのか意向をうかがう。	今の体制では看取りケアができない現状を再度伝え、医療的ケアが必要になった場合、他の施設への移り変わりや、手続き等こちらでできる支援はさせていただく。	12ヶ月
3	26	家族様の意向は面会時に確認しているが、直接アセスメントを確認することが出来ていない。	本人様・家族様にもケアプラン会議に参加していただき、意向や思いを再確認する。	家族様にケアプラン会議に参加していただけるよう、お手紙等で日程調整行い、なるべく参加を促す。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

1 自己評価及び外部評価結果

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		2590100166	
実施段階		(↓該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="radio"/>	①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者へサービス評価について説明した
		<input type="radio"/>	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="radio"/>	④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		<input type="radio"/>	⑤その他()
2	自己評価の実施	<input type="radio"/>	①自己評価を職員全員が実施した
		<input type="radio"/>	②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="radio"/>	③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="radio"/>	④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="radio"/>	⑤その他()
3	外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/>	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="radio"/>	②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="radio"/>	③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="radio"/>	④その他()
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/>	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="radio"/>	④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	⑤その他()
5	サービス評価の活用	<input type="radio"/>	①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		<input type="radio"/>	②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		<input type="radio"/>	③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		<input type="radio"/>	④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		<input type="radio"/>	⑤その他()